

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572607380		
法人名	社会福祉法人 柏仁会		
事業所名	グループホーム ありす刈和野		
所在地	秋田県大仙市刈和野愛宕下85番地		
自己評価作成日	平成28年6月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年7月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

刈和野駅より徒歩5分ほどの町の中心部にあり、昔からの商店街やスーパーにも徒歩で行けるなど環境に恵まれています。平成27年4月1日に複合施設として開所し、グループホームありす刈和野となりました。多目的ホールでの趣味活動やレクを生活介護の利用者の皆様と一緒に行うことができ、非常に楽しみも増えています。利用者の高齢に伴い、無理のないレクを考え、支援を行っています。平成28年4月には、2ユニットとなりました。年2回の春・秋のドライブや、地域の文化祭・柏の祭りなどにも参加して楽しんでいます。運営推進会議にも地域の方、家族様も積極的に参加していただき、充実した会議が実施されています。利用者様・ご家族様との信頼関係を深め、安心した生活ができるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者・障がい者の複合施設として設置され、互いの交流場が日常的にある。街中に立地し、駅やスーパー、病院、金融機関、公民館などが徒歩圏内にあり、利便性が高く、地域の方々との交流も多い。ホームは2階に設置されているが、家族の面会が頻回にあり、訪問しやすい雰囲気を感じられる。また、「このグループホームだったらいいかな」と思ってもらえるホームづくりを目指し、独自のアンケート調査を実施している。アンケート調査は今年も行う予定で、利用者に満足してもらえるホーム作りに積極的に取り組んでいる。各種記録がパソコン入力でシステム化され、利用者情報が共有でき、日々の支援に役立てられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全ての職員は法人の基本理念に基づき、利用者様の生活が充実できるように実践している。	「自立と共生」という法人の理念が日常的に確認できる場所に掲示されている。職員は、全て介助するのではなく、見守りや声掛けを大事にし、「(本人の)できることを支援する」姿勢を常に心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校、スポ少のボランティアの受け入れや地域の行事への参加、近所への買い物に出かけ交流をしている。	街中に立地していることから、近隣の方と挨拶を交わしたり、地域の行事に参加するなど日常的に交流場面がある。また、地域の小・中学生やボランティアの来訪もあり、活発な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症相談所」を設置し、地域の相談窓口として受け入れたり、運営推進会議の際も地域の方に認知症の理解や支援を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施し、介護保険事務所・包括・家族・利用者も参加しサービスについて話し合っている。	運営推進会議は定期的開催され、忌憚のない意見交換が行われている。出席者にホームの活動報告をする際、口頭や書面だけでなく、写真を多く提示することで、より具体的に理解していただくよう工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事務所主催の研修には積極的に参加し、また電話などでも相談しながら利用者の支援に取り組んでいる。	行政の職員が推進会議に毎回出席しており、利用者の暮らしぶりやホームの活動状況を具体的に伝えている。行政の担当者との連携や協力関係は十分築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修にも参加し、施設内でも伝達し職員が正しく理解し実践している。	身体拘束の事例はない。ホームは2ユニットとも2階部分に設置されているが、エレベーターや階段で自由に行き来できる状況になっている。防犯のため、夜間のみ1階の正面玄関を施錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修に参加し、職員が目につくところに虐待についての貼り紙も貼って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内でも勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約・改定の際には、十分に説明し文書にて確認を行っている。また、入居の際には利用者や家族より要望を聴き、退去の際には、家族より意見要望を伺うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業報告や法人の決算書などを公表している。また、意見箱を設置し家族・利用者より意見要望をいただくようにしている。電話や面会時にも要望や意見を聞き反映できるようにしている。	昨春秋に「利用アンケート調査」を実施。8割以上の方が満足されているという結果が出ている。今年も同様のアンケート調査を行う予定で、意見等を積極的に聴く努力をしている。また、電話や面会時にも要望や意見を聴く場面作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回、調整会議を週に1回設けている。また、日常業務の中での意見や提案がある場合は随時職員の意見が述べられるように取り組んでいる。	職員会議を月に1回、調整会議を週に1回開催し、職員の意見や情報を取り入れている。会議資料は予め配布し、効率的な会議になるよう努めている。特に調整会議では、大事な事柄が職員にきちんと伝達されているかどうか確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員と個人面接を行い意見を出せる機会はあるが、人員配置に余裕がない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が少し多くなった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事務所やグループホームの研修に管理者やケアマネも参加し他施設との情報交換を行っている。他施設からの施設見学や情報交換を行いサービスの質の向上をさせていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供開始前に、職員でケアの方向性を話し合い、本人の訴えを傾聴し、本人が安心して望む生活が出来るように信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス提供開始前にも家族からの要望、心配事、不安なことを聴き家族も安心できる生活が送れるように努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が安心して、穏やかに暮らせるよう共に信頼関係を築けるよう努め、支援している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、電話等で利用者の様子を伝え家族との繋がりも支援に結び付けられるように関係を築いている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人からの情報より本人の習慣や大切にしていたつながら、馴染みの環境、人間関係が継続できるように誰でも施設に訪問出来るように配慮している。	古くからある商店やスーパーなどへ徒歩で買い物に出かけたり、以前から顔なじみの床屋さんが定期的に来訪するなど馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。「大綱引き」の引き縄作りにも利用者と職員が参加している。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は日中は居間で過ごしており、利用者同士が常に関わりを持っている。個室で過ごす利用者には巡回を頻回に行い言葉掛けを行いレクリエーション等の参加の誘導も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時には、家族より意見を聞いている。また、いつでも相談に応じることを伝え支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントの把握・本人の意向を確認、カンファレンスを開き、その人らしい望む生活の支援に努めている。	一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。把握が難しい場合は、職員がこれまでのアセスメント結果を確認したり、日常の様子を報告しあうなど、カンファレンスを重ねながら本人の思いの把握に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の協力、利用者さんとの会話の中で本人の生活歴、習慣、拘りを知り、本人らしい望む生活が出来るように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送り記録から情報を共有し、職員全員が一人ひとりの現状把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成前に、本人、家族からの意見・要望を伺い、職員で意見交換を行い、本人の意向に近づけた計画書を作成している。	設定期間ごとのモニタリングで、本人・家族等からの意見や要望を聞き、介護計画に反映できるようにしている。本人の状態が変化した場合は都度見直しを行っている。介護計画は担当職員がモニタリングを行った後、職員全員でカンファレンスを行い作成されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記録し、職員で情報を共有している。担当職員の毎月のモニタリングで介護計画に沿ったケアが出来ているか確認している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーでの買い物や、公民館・図書館を利用し、地域での生活を楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医院の定期健診・健康診断・予防接種などを行っている。状況に応じて電話での相談、薬局からは薬についての説明を受けている。	協力医療機関(内科、歯科)が、車いすや徒歩で通院できる距離にあり利便性がとても良い。緊急時の対応はもちろん、電話での相談にも対応してくれている。薬局とも良好な関係が築かれている。通院の支援は家族が希望される場合もあるが、基本的にはホームで行っている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護師が毎日バイタル測定や利用者の健康状態の観察を行っている。日常の関わりの中での変化や気づきを看護師に報告・相談し医療との連携が迅速にとれるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、病院関係者と情報交換し、家族と連絡をとりながら早期対応し、出来るだけ早期退院できるように支援している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態が重度化した場合は、早い段階から家族に報告し、方向性を相談し医療関係者、施設との連絡を密にチームで取り組めるように努めている。終末期のケア体制はとっていない。	利用契約時に重度化した場合や終末期のケア体制をとっていない旨を十分説明し、理解してもらっている。利用者の状態が重度化した場合は、早い段階から家族に報告し、方向性を相談し医療関係者、施設との連絡を密にチームで取り組めるように努めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡の確認や手順は職員で何度も確認し実践力も身に付けている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時は地域住民、運営推進委員の方々、地域の消防団の協力を得られるようにしている。日中、夜間の避難訓練を年2回実施している。	ホームが建物の2階部分に設置されているため、災害時には全職員が避難方法を身に付けられるよう訓練を行っている。訓練では毎回、地区住民の協力が得られている。備蓄品は水や食料など3日分、発電機の設置もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重しプライバシーに配慮した支援を心がけている。	地域密着型故に利用者家族等の個人情報漏れがないよう細心の注意を払っている。家族等の面会は、できるだけ面談室や居室を利用していただくよう配慮している。また、日常の声掛けが、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でも思いや希望を尋ね、自己決定できるように支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や生活のペースを尊重し希望に添える生活が送れるように支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みや拘りを知り、おしゃれが楽しめるように支援している。また、定期的に理容師に来ていただき身だしなみを整えている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房で一括調理になっているが、毎月、給食委員会を開催し利用者さんの要望や感想を伝えている。テーブルセッティング・後片付けは職員と一緒に、出来ることの支援を行っている。	複合施設の厨房で一括調理となっているため、利用者が食材の購入や調理に携わる場面はないが、盛り付けやテーブルのセッティング、後片付けなどを職員と行う場面は日常的にある。利用者の意見・要望は、毎月開催される給食委員会で取り上げられ、献立等に反映されるようになっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養チェック表に食事・水分量を記入し、一人ひとりの状態、嗜好に応じた支援をしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔内の清潔を保つよう、嗽、歯磨きで口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、個々の排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら排泄の自立に向けた支援を行っている。	リハビリパンツを使用している利用者が大半を占めているが、排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を促すことで失禁の軽減に努めている。トイレ誘導は、本人のプライドを傷つけないよう配慮しながら行っている。交換用の排泄用品はトイレに保管され、スムーズな交換ができるようにしている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトやヤクルトなど乳製品やオリゴ糖などを食事や飲み物に取り入れている。また、運動不足にならないように毎日、体操も行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、健康チェックの後に、本人の希望を確認し週2回の入浴を基本に行っている。	週2回を基本にしているが、必要に応じ随時対応している。ホームはユニットバスであるが、施設の1階に特殊浴槽、大浴場が設置されており、利用者の健康状態や希望に応じて利用することができる。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温・湿度・本人の好みに合わせた照明の調整を行い、休息・安眠に向けた支援をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方された薬の一覧表をファイルし、職員が直ぐに見れるようにしている。処方の変更時は介護記録、日誌に記載し全職員が把握できるように申し送りを行っている。薬の副作用の理解に努めているが、分からない時は薬剤師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かせるようなレクリエーション・趣味活動の支援や他事業所の利用者とのレクリエーションも行い気分転換を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	法人や地域の行事に参加したり個別の外出にも対応している。春と秋にはドライブや外食を楽しんでいる。本人の希望があれば買い物支援も行っている。	春と秋のドライブ外出の他、徒歩圏内にあるスーパーに買い物に出かけたり、公民館で行われる各種イベントに参加したり、町の文化祭に参加するなど地域とのつながりを持ち続けられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかいは施設で管理している。週に2回、施設にパン屋さんが来所し本人のおこづかいを確認しながらパンの購入を楽しんでいる。希望時は職員と一緒に近隣のスーパーで買い物支援も行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人や家族の希望があれば、電話がかけられるように支援している。手紙、はがき等の通信の支援も行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔に使用できるように気配りしている。季節に合わせた花や飾りつけで利用者が季節感を感じられるように配慮している。	館内は、木の柱や天井、木製ベンチなどが設置され、居心地の良い空間となっている。リビングは十分なスペースがあり、食卓の他、ソファが置かれ、ゆったりとくつろげるよう工夫されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファがあり、ゆっくりと過ごせるように配慮している。施設の廊下にはベンチが設置され外からの採光でリラックスできる空間作りを行っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛用されていた物の持込や馴染みの家具、寝具の持ち込みで自宅に近い環境作りを工夫し、居心地よく過ごせるように工夫している。	家族が面会に来た際、本人と居室でゆっくり過ごすことができる広さが十分にある。各居室にナースコールが設置され、支援が必要な時は、すぐ対応できるよう配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダー交換、カーテンの開閉、プランターの水やり等、役割を持って生活できるように支援している。居室には名札を下げ、本人が分かるようにしている。		